

IIT(インド工科大学)

人材の

活用に迫る

座

談

会



紹介派遣部

Vol. 1



IIT営業統括
上家亮太

ブリッジSE他
佐野ちいほ

メンター
小出奈津子



私たちの業務

上家..新規および既存の企業様に対してインド工科大学(以下、IIT)の人材をご提案しています。IITメンバーの性格や良いところを理解していただけるよう、丁寧にご説明してお客様に合う人材をご提案するようにしています。お客様とインド人の間に立つて橋渡しをするのが我々営業の仕事です。

小出..入社後の受け入れサポートをメインに行っています。行政的な手続きのほか、ガス・水道・電気などの手続きや、生活が始まることから病院に行きたいなどの相談に乗ったり。あとは日本語教育のサポートをしています。

佐野..メインは営業とIITメンバーのサポートです。例えば企業様への課題提出やプレゼンテーションのサポート、就業開始後の精神的なサポートのほか、ブリッジSEもやっています。

IIT人材に対するイメージのギャップ

上家..二〇一五年ぐらいからベトナム、モンゴル、ミャンマー等東南アジアのエンジニアが入ってきて、外国人には少なからず関わってきましたが、今回IITのメンバーと関わってみてすごく印象が強かったのが、とにかく前向きで明るいですね。自分から話しかけてくれる人がすごく多くて、自分の興味がある分野や自己アピールが上手です。良い意味で我が強い、主張ができる民族なんだなと思いますね。

小出..実際に接してみるとは、悪い意味ですごく我が強いと聞いていたので、対応できると不安でした。でも「自分が、自分が」と思いきや全然そんなことはなくて。みんな空気を読んで言わなかったり、結構奥ゆかしい面もあるんです。すごく協調性や調整力があつてびっくりしました。

佐野..私はインドに六年住んでいたのですが、ギャップは無かったです。その通り、良くも悪くもインドのままです(笑)。



接してわかった IITの魅力

① 行動スピードの速さ

佐野.. インドのいいところは自由度が高い、決断が早い、自分の主張をきちんとする、配慮もするというところですね。
取り合えずやってみる、出してみる、ダメなら変えるというスピード感がすごく早いです。携帯電話を例に挙げると、日本はPIS↓ポケベル↓ガラケーと段階を



(※) 10ルピー紙幣 (14の言語)

踏んで開発されましたが、インドはPISからいきなりiPhoneに飛んで、それが普通に受け入れられる社会なんです。

② 他文化への適応力

上家.. インドには公用語が二十個あると最近知りました。
佐野.. そう。他の文化に対する尊重がすごいんですよ。
インドの紙幣には十四の言語で「一〇ルピー」と書かれています。(※左上写真)
上家&小出.. すごい!
佐野.. だからみんな複数言語を話せるし、「日本語もすぐ覚えられる」と言うんですよ。

③ 自身の立場への理解力

上家.. 彼らは精神的にも自立していて、自分のやりたいことができることがはっきりわかっています。そしてそれをうまくアピールして、貢献しようという意識があります。
小出.. 空気を読むのも早いですね。立ち居振舞いも全然受け身じゃない。
上家.. そうですね。昨日、企業様とお顔合わせで案件の説明をしていたら、IITの子が「私はこういうことができます!」と

図を描いて、「ここが僕の頭の中にあるから御社でお役に立てます」と横に来て話し始めたんです。すると最初は難色を示していたお客様が、みるみる惹きつけられていくのを感じました。それで採用を検討してもらえることになったんです。
小出.. みんな主体的ですよね。仕事に対して。

IIT人材を うまく活かすには

上家.. 企業様がIITに少しでも興味があるという時点で、担当者様には自社が抱えている課題が分かっているんですよ。ただ、どこから着手するかや、問題の規模、解決策が分からないというのはあると思います。まずはIITのメンバーの主体性に預けて、やらせてみるのが企業様の革新的な成長につながると僕は思いました。
小出.. 任せられたらやる人たちですよ。
上家.. やらせる下地があるかどうか大きいですよ。一から十まで指示したところとしかさせられないというところは、日本の企業が変わらないといけない部分だと思えます。

佐野.. IITを活用するにあたって一番必要なのは、我々が他の会社に対して、彼らとの接し方や使い方をレクチャーすることじゃないでしょうか。その上で「サポートするのでインド人を入れてみませんか?」とご提案する。そして時折訪問して「こういう風にしたらいいですよ」とお話ししながら、企業様の考え方を変えていく必要があると思います。さらに並行して「この人は御社に合っているので使ってみてください」という提案をしていかないといけないと思います。
上家.. 今回IITを受け入れたことによって、日本の企業がこんなに閉鎖的なんだと実感したので、すごく勉強になりました。
小出.. やっぱ一回接してほしいです。とにかく使ってみてほしいです。

